

豊島与志雄 とよしま よしお 「影法師」 かげぼうし より

晴れた日の朝早く、長者の子供を交えて三・四人の子供が、いつものように、そこで遊んでいました。

東の地平線から出たばかりの太陽の光りが、

皆の影を白い壁にくっきりとうつしていました。

その影がとてものはっきりしていておもしろいので、

みんなは影うつしの遊びを始めました。

「あっ、いい」と考えた」と長者の子供がふいに叫びました。

「待つてよ、すぐ来るから」

そして長者の子供はいきなり駆け出して、

うちの中に入って行きました。

お祖父さんが、大きなまんまるい眼鏡をかけて、

縁側で本を読んでいました。

「お祖父さん、僕にあの……東の塀を下さうよ」と子供は言いました。